

※GEC 設置「全学副専攻」とは異なる制度ですので、ご注意ください。

【2026 年度版】

副専攻制度について

政治経済学部では、副専攻制度を実施しています。

副専攻制度の趣旨は、特定の学問領域の科目を集中して選択履修することによって、目的意識をはっきりさせ学習の誘因を高めるとともに、**主専攻以外の分野**の学問的知見をより豊かにすることにあります。特定の学問領域は、政治学、経済学、法学、ジャーナリズム・メディア、会計学、に分かれています。また、2019 年度入学者からは外国語地域副専攻プログラム（ドイツ語圏・フランス語圏・ロシア語圏・中国語圏・スペイン語圏）もあります。これらの領域に設置された科目群からそれぞれの副専攻所定の要件を満たして、卒業年度に所定の手続きを取れば、卒業時に証書を交付します。（再発行はできませんので、ご注意ください。）

なお、副専攻ごとに掲載されている分野や科目には変更の可能性がありますので、履修年度ごとに政治経済学部ホームページを確認してください。

- ・対象科目は卒業非算入科目として登録した場合も有効です。
- ・日本語と英語の両方で同内容が提供されている科目（対象は科目登録の手引き参照）について、両方の単位を修得した場合、一方の単位のみを副専攻の対象として認めます。

「政治学」

※政治学科生と、2021年度以降に入学した国際政治経済学科生は取得不可

概要&メッセージ

政治学は、制度や理論、歴史や思想、地域や国際関係など、多くの領域にまたがる複合的でダイナミックな学問領域です。政治学の基礎科目では、政治学の基礎概念（理念・方法・制度・動態）を習得し、国内政治・国際政治の最新動向に触れることとなります。また、専門科目では、(A) 現代政治の仕組みを解明し、その意味を理解するための「理論分析」、(B) 政治現象の地域的な特質と時間的な変化を分析するための「比較・歴史」、(C) 国際社会の仕組みを理解し、その動態のメカニズムを解明するための理論・事例研究を行なう「国際関係」、(D) 政策を評価、立案、実践するための行政理論を含んだ「公共政策」などを系統的体系的に学習することを期待します。

この副専攻では、政治学の高度な理論的水準と国際性豊かな専任スタッフによる体系的な政治学教育のカリキュラムにもとづき、政治学科以外に所属する学生にも、政治現象を専門的かつ体系的にとらえることができるようにすることを教育目標としています。受講する学生の皆さんが、多様性と専門性のバランスに留意し、以下の履修条件のもとで、みずから手作りで学ぶプログラムを選択・編成してみませんか。

副専攻科目リスト

本学部の学生（政治学科生と、2021年度以降に入学した国際政治経済学科生を除く）が、以下の要件を卒業時まで満たせば、副専攻と認めることにします。なお、単位認定により認定された科目・単位も本副専攻の対象とします。

<2014～2018年度入学者>

- (1) 「政治分析入門」(4単位)、「政治理論入門(2単位)または公共哲学(政治)(2単位)」を必修科目(前提科目)」とする。
- (2) 履修年度の学科目配当表に記載されている政治学科目から24単位以上の履修を要件とする。
(ただし、上記必修科目は除く)

<2019年度以降入学者>

- (1) 履修年度の学科目配当表に記載されている政治学科目から24単位以上の履修を要件とする。
(ただし、「公共哲学(政治)」、「政治分析入門」は除く)

「経済学」

※経済学科生と、2021年度以降に入学した国際政治経済学科生は取得不可

概要&メッセージ

副専攻「経済学」では、経済の動きを論理的に考察する力を養うことを目標とします。

経済には様々な側面があります。個人がモノやサービスを購入する、企業がモノやサービスを提供する、政府が雇用政策を実施する、原油価格の変化によって輸出入が変化する、為替レートや利子率の動向によって国際金融の動きが変わる、など、われわれの社会は経済と密接なかかわりを持っています。経済の活動は相互に依存しており、それを正しく理解するには直感による判断だけでは不十分です。経済活動のメカニズムを理論化して客観的にそれを捉えることが必要です。また、どの経済活動も歴史的・制度的文脈においておこなわれるため、経済を中心とした歴史の理解も不可欠です。

経済学科には、経済を理論的・歴史的に考察するための科目が数多く提供されています。

副専攻科目リスト

本学部の学生（経済学科生と、2021年度以降に入学した国際政治経済学科生を除く）が、以下の要件を卒業時まで満たせば、副専攻と認めることにします。なお、単位認定により認定された科目・単位も本副専攻の対象とします。

<2014～2018年度入学者>

- (1) 「ミクロ経済学入門」(2単位)、「マクロ経済学入門」(2単位)を必修科目（前提科目）とする。
- (2) 履修年度の学科目配当表に記載されている経済学科目から26単位以上の履修を要件とする。
(ただし、上記必修科目は除く)

<2019年度以降入学者>

- (1) 履修年度の学科目配当表に記載されている経済学科目から26単位以上の履修を要件とする。
(ただし、「ミクロ経済学入門」、「マクロ経済学入門」は除く)

「法学」

概要&メッセージ

今日の我々の生活は、政治関係であれ経済関係であれ、法の支配を受けて実現されています。したがって法律学の基礎について体系的に学習することは、政治学や経済学を専攻する学生にとっても、それぞれが対象とする枠組みをより良く理解できるという利点があるでしょう。また、法律学は用語や概念の特殊性や複雑さから独学しにくい科目であるだけでなく、口頭による議論を当然の前提とするという意味で独学に向かない科目です。

この副専攻では、法学部との密接な連携のもと、専任スタッフによる高度な理論水準を踏まえた法律学の基礎的トレーニングを通じて、法現象を専門的かつ主体的に考えることができるようにすることを目標としています。なおこの副専攻は、公務員試験の受験希望者や法科大学院の既習者コース進学希望者のニーズにも応えるように設定されています。

なお、副専攻対象科目とはなりません。不足する訴訟関係科目については、3次登録にて登録可能な他学部提供登録として履修できる可能性があります。(登録可能な科目については3次登録時に法学部HPの他学部生向け余裕定員表を確認してください。)

副専攻科目リスト

本学部の学生が、以下の要件を卒業時まで満たせば、副専攻と認めることにします。

政治経済学部設置科目名・単位数	取得要件
憲法 (4単位) 民法 (総則) A・B (各2単位) ※1 刑法 (4単位) ※1 法学A・B (各2単位) ※2 法学A・B (憲法を含む) (各2単位) ※2	10単位以上
行政法総論 (4単位) 行政救済法 (4単位) 国際法 I・II (各2単位) 民法 (物権法) (2単位) ※1 民法 (債権総論) A・B (各2単位) ※1 商法 (会社法) (4単位) ※1 支払決済法 (2単位) ※1 金融法・銀行法 (2単位) ※1 労働法 A・B (各2単位) ※1※3 比較憲法論 (2単位) ※3	合計30単位以上

※1 は法学部との合併科目。なお、民法 (物権法) (2単位)、民法 (債権総論) A・B (各2単位) は、民法 (総則) を履修済みであることが前提として提供されます。

※2 「法学A」と「法学A (憲法を含む)」の重複履修、「法学B」と「法学B (憲法を含む)」の重複履修は不可とします。

※3 科目の変更点

変更年度	変更概要	変更前	変更後
2019	名称変更	労働法 I	労働法 A
2019	名称変更	労働法 II	労働法 B
2019 (2021 反映)	科目追加	-	比較憲法論
2023	科目削除	経済法 租税法	-
2026	科目削除	手形・小切手法 {4}	
2026	科目追加		支払決済法 {2} 金融法・銀行法 {2}

「ジャーナリズム・メディア」

概要&メッセージ

早稲田大学、特に政治経済学部は創設以来、優れたジャーナリストを世に送り出してきた。現在、新聞、雑誌、テレビ・ラジオ、広告、ウェブなどメディアで活躍する先輩は多数にのぼる。そうした伝統を受け継ぎ、今日の新しいメディア状況に対応すべく、全学的な協力のもと 2008 年度大学院政治学研究科にジャーナリズム・コースが開講した。このコースは日本初のジャーナリズム大学院として、ジャーナリズム修士号を付与する課程である。

本副専攻は、このジャーナリズム大学院との密接な連携のもと、ジャーナリズムやメディアに関する理論と実際を体系的に学ぶ機会を学部生に提供するものである。なお、ジャーナリストとして活躍するためには、特定の専門分野も非常に重要であるので、他の副専攻と組み合わせて学習することを強く勧める。

副専攻科目リスト

本学部の学生が、以下の要件を卒業時まで満たせば、副専攻と認めることにします。

政治経済学部設置科目名・単位数	取得要件
政治コミュニケーション（2単位）※1 メディア・コミュニケーション史（2単位） ジャーナリズム論（2単位） 政治テキスト分析（2単位）※1 ジャーナリズムの法と倫理（2単位） 映像ジャーナリズム論（2単位） 映像文化論（2単位）	8単位以上
経済メディアの世界（2単位）※1 メディア産業論（2単位）※1 メディアの世界（2単位）※1 ドキュメンタリー入門（2単位）※1 フォトジャーナリズム入門（2単位）※1 ウェブ スキル（2単位）※1 Political Communication（2単位）※1 ジャーナリズム研究（各2単位） メディア論（2単位）※1 報道現場論（2単位） Contemporary Journalism in Asia（2単位） Global Communication（2単位） ジャーナリズム・メディア演習 I, II, III, IV（各2単位）	合計30単位以上

※1 科目の変更点

変更年度	変更概要	変更前	変更後
2017(2024 反映)	科目削除	科学技術ジャーナリズム英語	(2016 年度を以って廃止)

		文献研究	
2019 (2024 反映)	科目削除	Journalism and Mass Communication History	(2018 年度を以って廃止)
2019	名称変更	コミュニケーション論 政治コミュニケーション論 A/B	政治コミュニケーション
2019	名称変更	ジャーナリズム分析入門	政治テキスト分析
2019	名称変更	書物・テキスト論	テキスト論
2019	名称変更	Mass Communication Theories	Political Communication
2019	単位数変更	メディア論 4 単位	2 単位
2022 (2024 反映)	科目削除	テキスト論	(2021 年度を以って廃止)
2023	単位数変更	メディア・コミュニケーション 史 4 単位	2 単位
2024	名称変更	提携講座	経済メディアの世界 メディア産業論 メディアの世界
2024	科目追加	-	ドキュメンタリー入門 フォトジャーナリズム入門 ウェブ スキル

「会計学」

※この副専攻は廃止を予定しており、2022年度以降入学者は取得不可。2021年度以前入学者についても、副専攻科目の修得期限あり。2024年度以降に取得した単位は、この副専攻の申請には含めることができない。

概要&メッセージ

我々は財やサービスを相互にやり取りをしながら生活している。そのやり取りを記録し計算し管理することは人間の生活に必須のことである。このような会計行為は特に企業などの組織にとって存続に不可欠である。我々の社会生活において重要な役割を果たしている会計をよく知ることは、経済活動や社会の在り方を理解することにもつながっている。

また、政治経済学部は伝統的に多数の公認会計士を世に送り出してきており、先輩たちは広く様々な分野で活躍している。したがって会計学は将来のキャリアに展望を与える学問でもある。

よき伝統と最新の学問的成果を結合させ、会計学を深く学ぶことができる機会を提供する。ここでは、企業の経済活動を記録・計算し、経営活動の成果を外部に報告する分野である財務会計と会計データを企業の経営管理に活用する分野である管理会計を中心に学ぶことになる。なお、1年次開講の「基礎会計学」が必修であり、その理解を前提として、他の科目の履修が認められることに留意すること。

副専攻科目リスト

2021年度以前に入学した本学部の学生が、以下の要件を満たせば、副専攻と認めることにします。ただし、副専攻科目には修得期限があります。

- (1) 「**基礎会計学（4単位）※商学部・法学部との合併科目**」を**必修科目**（前提科目）とする。
- (2) 以下の学科目から合計16単位以上を取得すること。

商学部設置科目名・単位数
簿記Ⅰ・Ⅱ（各4単位）
財務会計論（4単位）※1 基礎会計学のほか、履修条件があります。※1を参照してください。
管理会計論（4単位）※1 基礎会計学のほか、履修条件があります。※1を参照してください。
原価計算論（4単位）
会計監査論（4単位）
財務諸表分析論（4単位）
企業価値評価論（4単位）
会計情報システム論（2単位）
業績管理会計論（2単位）
税務会計論Ⅰ・Ⅱ（各2単位）
連結会計論（2単位）
国際財務報告会計（2単位）※1

【注意】 上記表内の科目は全て商学部設置科目のため、科目登録種類のうち、3次登録にて登録可能な「他学部提供登録（旧：他学部聴講登録）」として登録してください。
なお、一部の科目はオープン科目として、システム上1次登録で申請が可能になっています。ただし、オープン科目として1次登録で申請する場合、前提条件が課され、

前提条件を満たさないまま申請すると、前提条件エラーとして「登録不可」になります
 (3次登録で「他学部提供登録」として申請する場合には、前提条件は課されません)。
 これらオープン科目の前提条件については、全学オープン科目履修ガイドで確認して
 ください。

※1 科目の変更点

変更年度	変更概要	変更前	変更後
2014	履修形態	財務会計論	これら2科目は、3次登録での申請ができません。オープン科目として1次登録で申請する際にも、全学副専攻履修ガイド(全学オープン科目履修ガイド中に掲載)の「会計学」における指定科目一覧に記載された前提条件(ビジネス入門および基礎会計学)を満たさない限り、履修できませんので注意してください。また、このことについて問い合わせがある場合は、科目担当教員や全学副専攻「会計学」のコーディネータではなく、政経事務所に問合せをしてください。
2014	履修形態	管理会計論	
2020	科目追加	-	国際財務報告会計

副専攻科目の修得期限

政治経済学部の副専攻「会計学」の申請は、2023年度末までに取得した単位のみ認められます。

なお、副専攻科目リストにある(2)の商学部設置科目は、2024年度以降も、それまで同様に他学部設置科目として履修可能である場合がありますが、2024年度以降に取得した単位はこの副専攻の申請には含めることはできません。

また、必要な単位の取得が完了したタイミングに関わらず、政治経済学部の副専攻の申請は卒業年度に所定の手続きにより申請してください。

「外国語地域副専攻」

※2018年度以前入学者は取得不可

概要&メッセージ

「複言語」という概念をご存じだろうか。これはそれぞれの個人がその関心と必要に応じて複数の言語を使用している状態のことを言う。グローバル化する世界の中で英語の重要性は言うまでもないが、他方で多様性から得られるものも忘れてはならない。複言語能力の発展は同時にグローバル市民が備えるべき異文化間能力および複眼的思考能力の発展につながるものと考えられている。

政治経済学部では、ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語を使ってその地域の政治や経済について専門的に学べる道筋を提供し、複言語能力の発展を後押ししている。「外国語実践演習」ではその地域の社会について当該言語でテキストを読み、発表し討論することで、当該言語によるアカデミックコミュニケーションの能力を高める。並行して関連する演習科目、講義科目を履修することによりその地域についての知識を深めることができる。当該地域への留学準備、留学後のフォローアップにもおおいに役立つだろう。

副専攻科目リスト

本学部の学生が、以下の要件を卒業時まで満たせば、副専攻と認めることにします。

留学で取得した単位も、対応するカテゴリー「C」または「D」の単位に算入することができます（上限6単位）。

1. 必要単位数

カテゴリー	A	B	C	D
言語	外国語 実践演習	演習	関連科目	関連科目(広域)
合計 20 単位以上	6 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上
		B, C より合計で 6 単位以上		

2. カリキュラム表

カテゴリー	A	B	C	D
中国語	中国語実践演習 I [3]	アカデミックリテラシー演習 (キャンパス・アジアへの誘い：歴史・和解・変革) [2]	中国政治 [2] Chinese Politics (in Chinese) [2]	東アジアの比較政治 [2] Comparative Politics of East Asia [2]
	中国語実践演習 II [3]	アカデミックリテラシー演習 (日中文化交流研究) [2]	政治学研究 (現代中国政治経済) [2]※1	東洋政治思想史 [2] 地域研究(東アジア史) [2]
	中国語実践演習 IIIA [3]	国際政治経済演習 I、II、III、IV(唐亮)【副題：現代中国の政治経済と外交戦略】[各 2]	政治学中国語文献研究 [2]	アジア経済論 [2] Asian Economy [2]
	中国語実践演習 IIIB [3]		中国経済論 [2]	グローバル経済史 [4] グローバル経済史の諸問題B [2]
			Chinese Economy [2]	グローバル・リテラシー総合講座 (世界の言語/言語の世界) [2] 東洋思想 [2] 地域文化研究(東アジア) [2] 外国文学 01 [2]※1 歴史学 [2] 東アジア論 [2] 外国史概論A [2]

2. カリキュラム表 (続き)

カテゴリー	A	B	C	D
ドイツ語	独語実践演習 I [3] 独語実践演習 II [3] 独語実践演習 IIIA [3] 独語実践演習 IIIB [3]	アカデミックリテラシー演習 (複言語で学ぶ社会文化) [2] アカデミックリテラシー演習 (ドイツ語で聞いて読むニュース) [2] アカデミックリテラシー演習 (ドイツの文化) 0 1 アカデミックリテラシー演習 (ドイツ語で学ぶヨーロッパの現代社会) 0 1	地域文化研究 (中欧) [2] 政治学ドイツ語文献研究 [2]	
フランス語	仏語実践演習 I [3] 仏語実践演習 II [3] 仏語実践演習 IIIA [3] 仏語実践演習 IIIB [3]	アカデミックリテラシー演習 (社会文化研究) [2] アカデミックリテラシー演習 (ジェンダーの視点から見たフランス社会) [2] 学際領域演習 I、II、III、IV(ブロッソールシルヴィ)【映画研究演習、映画学入門】 [各2]	地域文化研究 (フランス) [2] 政治学フランス語文献研究 [2]	【ドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語共通】 西洋政治史 [4] Western Political History [2] 西欧諸国の比較政治 [2]
ロシア語	露語実践演習 I [3] 露語実践演習 II [3] 露語実践演習 IIIA [3] 露語実践演習 IIIB [3]	アカデミックリテラシー演習 (日露関係史) [2] アカデミックリテラシー演習 (アジアにおける国際関係) [2] アカデミックリテラシー演習 (現代ロシア論) [2] Intermediate Seminar (Russo-Japanese Relations) [2] 政治経済演習 I、II (シュラトフヤロスラブ)【副題：ロシア近現代史】 [各2]	政治学ロシア語文献研究 [2] 政治学研究 (ロシア・北東ユーラシア国際関係史) [2]	Comparative Politics of Western Europe [2] 国際政治思想 [2] 地域統合論 [2] グローバル経済史 [4] グローバル経済史の諸問題D [2]※1 グローバル・リテラシー総合講座 (世界の言語/言語の世界) [2] 外国文学 0 2 [2]※1 現代思想 [2]
スペイン語	西語実践演習 I [3] 西語実践演習 II [3] 西語実践演習 IIIA [3] 西語実践演習 IIIB [3]	アカデミックリテラシー演習 (古典スペイン文学) [2] アカデミックリテラシー演習 (現代スペイン文学) [2] アカデミックリテラシー演習 (スペイン内戦) [2] アカデミックリテラシー演習 (ラテンアメリカ文学) [2]※1 アカデミックリテラシー演習 (ラテンアメリカの移民問題) [2] アカデミックリテラシー演習 (スペイン語で学ぶ政治経済) [2]	地域文化研究 (中南米) [2] 政治学スペイン語文献研究 [2]	

※1 科目の変更点（専門演習の副題除く）

変更概要の欄に「名称変更」または「科目削除」と記載されている場合、変更前の欄に記載されている科目名で履修・習得した科目も対象とします。

変更年度	変更概要	変更前	変更後
2020（2021 反映）	名称変更	政治学研究（Political Economy in Contemporary China）	政治学研究（現代中国政治経済）
2019（2021 反映）	科目削除	現代アジア経済史	（2018 年度を以って廃止）
2019（2021 反映）	科目削除	Economic History of Europe	（2018 年度を以って廃止）
2019（2021 反映）	科目削除	現代西洋経済史	（2018 年度を以って廃止）
2021	表記修正	外国文学	外国文学 01 外国文学 02
2019（2021 反映）	科目追加	-	西洋経済史の諸問題D
2021	科目追加	-	アカデミックリテラシー演習（ラテンアメリカ文学）
2022	科目削除	地域研究（東アジア政治経済） Asian Economy A Asian Economy B	（2021 年度を以って廃止）
2022	科目追加		アジア経済論 Asian Economy アカデミックリテラシー演習（ドイツ・オペラ1） アカデミックリテラシー演習（ドイツ・オペラ2） アカデミックリテラシー演習（ヨーロッパのバレエとダンス1）
2023	科目名称変更	アジア経済史 アジア経済史の諸問題A 西洋経済史 西洋経済史の諸問題D	グローバル経済史 グローバル経済史の諸問題B グローバル経済史 グローバル経済史の諸問題D
2023	科目削除	学際領域演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ（荻野静男） 政治学中国語文献研究A ※ 政治学中国語文献研究B ※ 政治学ドイツ語文献研究A ※ 政治学ドイツ語文献研究B ※ 政治学フランス語文献研究A ※ 政治学フランス語文献研究B ※	（2022 年度を以って廃止） ※大学院先取り科目として履修した場合のみ対象

変更年度	変更概要	変更前	変更後
		政治学スペイン語文献研究 ※ アジア経済史の諸問題 B	
2023	科目追加	-	アカデミックリテラシー演習（ヨーロッパのバレエとダンス2） 政治学中国語文献研究 政治学ドイツ語文献研究 政治学フランス語文献研究 政治学スペイン語文献研究
2023	ロシア語地域の追加		
2024	科目削除	アカデミックリテラシー演習（ドイツ語の文献を読んでナチスを知る（ドイツ現代史）） アカデミックリテラシー演習（ドイツ・オペラ1） アカデミックリテラシー演習（ドイツ・オペラ2） アカデミックリテラシー演習（ヨーロッパのバレエとダンス1） アカデミックリテラシー演習（ヨーロッパのバレエとダンス2） アカデミックリテラシー演習（ルモンドで読むフランスの現在） 学際領域演習 I、II、III、IV（岡山茂） ヨーロッパ経済論	（2023年度を以って廃止）
2024	科目追加	-	アカデミックリテラシー演習（ドイツ語で聞いて読むニュース） アカデミックリテラシー演習（ドイツ語で学ぶ現代ヨーロッパの社会文化） アカデミックリテラシー演習（社会文化研究） アカデミックリテラシー演習（フランス語メディアの目から見た世界） 政治学研究（ロシア・北東ユーラシア国際関係史） 政治経済演習 I、II（シュラトフヤロスラブ）
2025	科目削除	アカデミックリテラシー演習	（2024年度を以って廃止）

変更年度	変更概要	変更前	変更後
		(ドイツ語で学ぶ現代ヨーロッパの社会文化) 01	
2025	科目追加	-	アカデミックリテラシー演習 (ドイツの文化) 01 アカデミックリテラシー演習 (ドイツ語で学ぶヨーロッパの現代社会) 01 アカデミックリテラシー演習 (ジェンダーの視点から見たフランス社会) 01
2026	科目追加		アカデミックリテラシー演習 (ラテンアメリカの移民問題) 01 アカデミックリテラシー演習 (スペイン語で学ぶ政治経済) 01